

Vol.148 「部活動で得たもの」

野球、サッカー、バレーボール、バスケットボール、テニス、吹奏楽、合唱など、中学校や高校のほとんどの学校で正課外活動として部活動が行われています。中高生の多くが加入している部活動は、将来どのように役立っているのでしょうか。今回は、20～60代の社会人を対象に学生時代の部活動を振り返ったときの評価や身についたと思う力について調査しました。

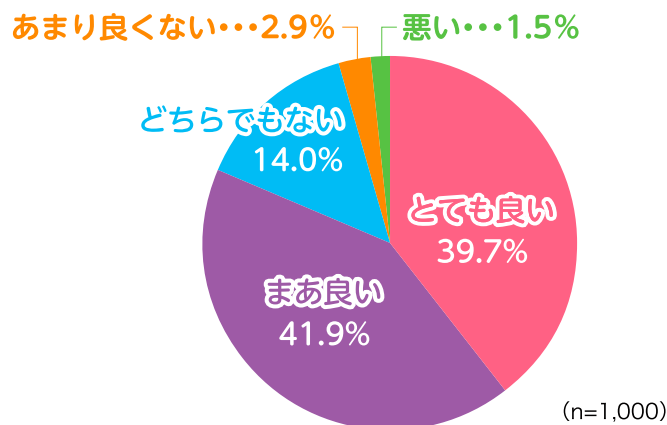


調査概要

調査対象：学生時代に部活動をしていた
20～60代の男女 1,000人
調査方法：インターネットリサーチ
実施時期：2018年1月

Q 1. 学生時代の部活動の評価

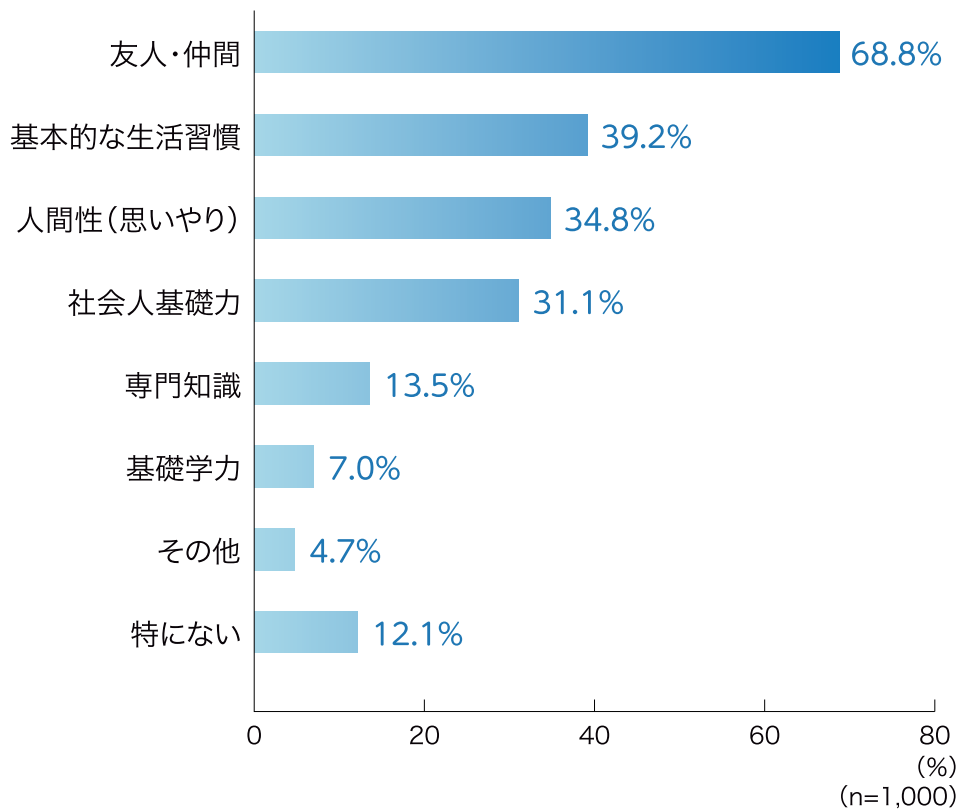
20～60代の社会人が学生時代の部活動を振り返ったところ、「とても良い」(39.7%)と「まあ良い」(41.9%)を合わせると8割以上が部活動をしていて良かったと回答しています。



【図1】 あなたは学生時代に部活動をしていて、良かったと思いますか。(単数回答)

Q 2. 部活動で得たもの

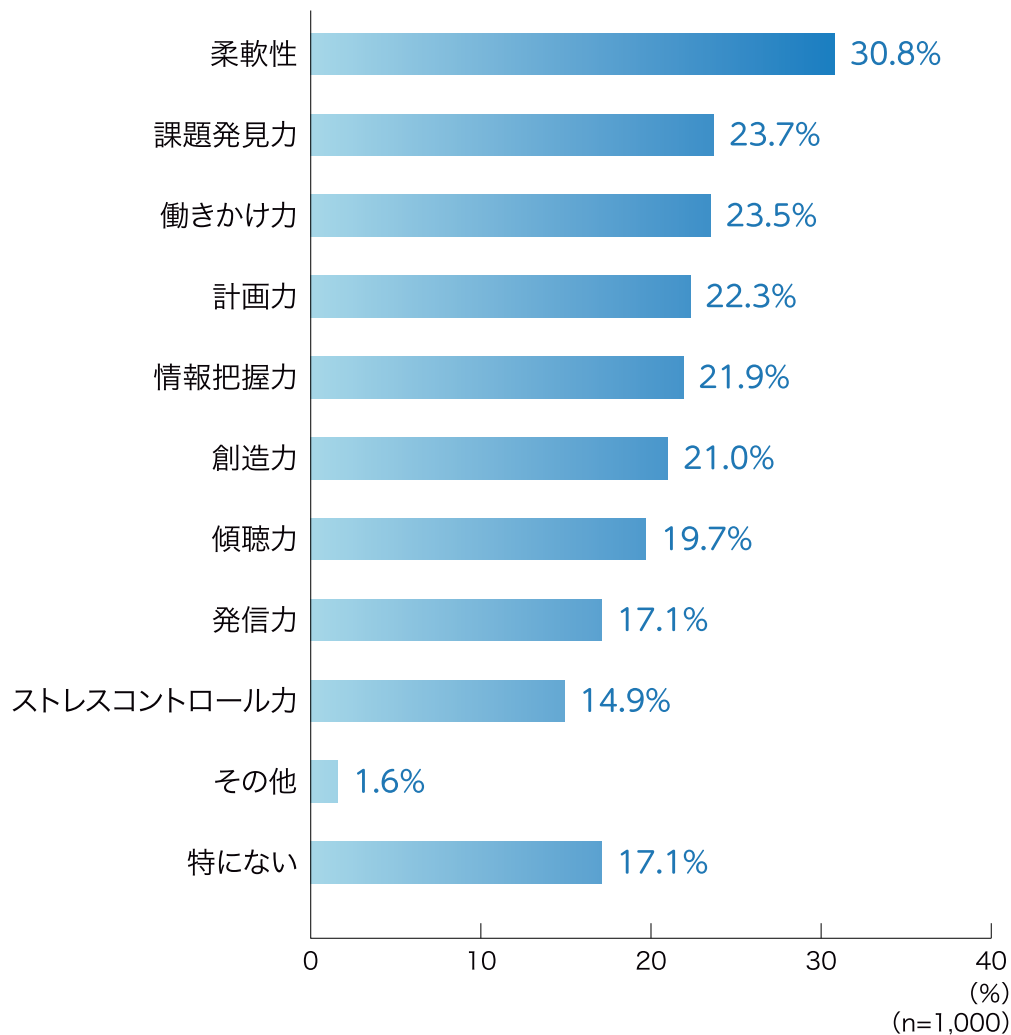
部活動を通じて得たと思うものは、「友人・仲間」(68.8%)が圧倒的に多く、次に、公共心、倫理観、基礎的なマナー、身の回りのことを自分でしっかりやるなどの「基本的な生活習慣」(39.2%)、「人間性(思いやり)」(34.8%)、職場や地域社会で多様な人々と仕事をしていくために必要な「社会人基礎力」(31.1%)という社会生活に必要な力が得られたという回答が多くみられました。



【図2】 あなたが部活動で得たものは何ですか。(複数回答)

Q 3. 部活動を通じて身についた力

学生時代の部活動を通じて身についたと思う力は、意見の違いや立場の違いを理解する「柔軟性」(30.8%)や、現状を分析し目的や課題を明らかにする「課題発見力」(23.7%)、他人に働きかけ巻き込む「働きかけ力」(23.5%)、課題の解決に向けたプロセスを明らかにし準備する「計画力」(22.3%)、自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する「情報把握力」(21.9%)、新しい価値を生み出す「創造力」(21.0%)などがあげられました。



【図3】 あなたは部活動をしていて、どのような力が身に付きましたか。(複数回答)

 まとめ

近年、学習指導要領の中に部活動の意義が記載されるなど、生徒の自主的、自発的な参加により行われる部活動についての教育的価値が見直されています。

今回、学生時代に部活動をしていた20～60代の社会人を対象に、学生時代の部活動の調査を実施したところ、「とても良い」(39.7%)と「まあ良い」(41.9%)を合わせると8割以上が部活動をしていて良かったと回答しています。そのように思う背景としては、学生時代の部活動を通じて、「友人・仲間」(68.8%)、「基本的な生活習慣」(39.2%)、「人間性(思いやり)」(34.8%)、「社会人基礎力」(31.1%)などを得ることができ、更に、部活動を通じて、「柔軟性」(30.8%)、「課題発見力」(23.7%)、「働きかけ力」(23.5%)、「計画力」(22.3%)、「情報把握力」(21.9%)、「創造力」(21.0%)、「傾聴力」(19.7%)、「発信力」(17.1%)、「ストレスコントロール力」(14.9%)など、社会人になってからも必要とされる多くのスキルが育まれたと感じているようです。この調査結果から見えるように、部活動は子どもたちの健全育成に大きな役割を果たし、生徒の能力・適性、興味・関心に応じて「生きる力」の育成に大きく貢献する活動となっていると言えます。

日本社会の労働環境は、生産年齢人口の減少、経済成長の停滞、働き方改革など変革期を迎えています。その激変する社会において、学生時代の部活動は、力強く生き抜く「人生100年時代の社会人基礎力」の基盤づくりの一翼を担っているようです。

毎月最終
火曜日
更新

カンコーホームルーム ～学生を読み解くデータ集～

カンコーホームルームは、学生を取り巻く環境や子どもたちの意識・ライフスタイルについて、多角的に調査・分析し、その結果をお届けしています。

ホームページでは、今回ご紹介した調査データ以外にも様々な情報を掲載しております。

<http://kanko-gakuseifuku.co.jp>